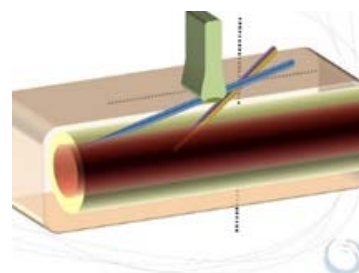


# 腎愛会 透析AtoZ

## ■エコーガイド下穿刺について

今回は当院の透析室で行われているエコーガイド下穿刺をご紹介します。  
エコーガイド下穿刺の対象は、「バスキュラーアクセス（以下VA）が細く、深く、触れにくい。動脈が近い。内腔が狭い。血腫形成がある。VA未発達である。穿刺抵抗がある…」などですが、これらの状態には、エコーガイド下穿刺は極めて有効です。VA穿刺で気を付けることは、危険な個所を避けること、血管内の後壁・側壁に内筒先端が触れないように外筒先端を血管内まで進めることであると考えられますが、エコーガイド下での穿刺は、スムーズにそれを可能にしています。



当院でのエコーガイド下穿刺開始時は、担当者一人でのエコーのプローブと針の操作に苦戦したり、針の位置が分からなくなってしまうと課題が出ました。また、「エコーがあるとすぐに始められるが、技術の習得に時間がかかる。エコーが高額機器であるため、安易に購入できない。穿刺者の手技によっては、エコー不使用での穿刺よりも痛みがある」などのデメリットがありました。

しかし、続けるにつれ、穿刺困難者への穿刺が成功しやすくなったこと、全体の穿刺効率が改善されたこと、穿刺角度が透析加療において如何に重要であるか分かったことなど、多くのメリットもありました。

エコーガイド下でのVAへの穿刺は、穿刺に伴う患者様の痛みを軽減し、VAそのものを保護するためにも大変有効です。今後もさらにエコーガイド下での穿刺に取り組み、穿刺技術の向上と、透析時の不具合修正の技術向上に努めて参ります。